

## 寄り道ナビ

(平成24年10月調べ)

豪商が競って菩提寺に寄進したことにより、大きな寺院がたくさんあるのがこの地域の特色です。この地の富を運んだ榎田川と街道をキーワードに寄り道してみませんか？

MAP	立寄り処	電話(市外局番 0598)	概要
A	青木製菓	38-2108	自然の味を活かした伊勢いもまんじゅう。火曜定休
B	うおすけ	38-2121	榎田川の恵み。創業慶応元年の鮎の甘露煮
C	みなとや	38-2007	鮎料理専門店の味、鮎の甘露煮。明治22年開業
D	長新	38-2018	元禄年間創業の街道名物「まつかさ餅」
E	やまちゃんち	38-3438	手づくりソーセージが評判のカフェレスト。月曜定休
F	浄土寺		大和屋菩提寺。境内に大松屋の大日堂が残る
G	相可坊		金剛座寺塔頭(たつちゅう)。駐車場4台利用可
H	白子屋	29-2118	地元で人気のみたらしだんご。火曜定休
I	本宗寺		俳人大淀三千風の生家、三井家の菩提寺
J	伊穀寺		射和石の石垣がみことな富山家の菩提寺
K	延命寺		竹川家の菩提寺。山門は松阪市最古の木造建築物
L	蓮生寺		榎田川中にある竜灯岩にちなむ伝承が残る
M	乳熊寺		奈良時代、乳熊郷の氏寺。境内に庚申塚がある
N	心光寺		竹口家の菩提寺。道と川の間にも山門がある
O	聖徳寺		集落の東端にある聖徳太子開基の寺

- 伊勢本街道：大和と伊勢を最短距離で結ぶ。峠道が多く、往時の風情が残る道として知られ、歩く人が多い。
- 和歌山街道：和歌山から高見峠を越えて松阪に至る全長45里の道。紀伊徳川家が参勤交代路として整備。
- 和歌山別街道：飯南町粥見で和歌山街道と分岐し、丹生、長谷を経て田丸へ向かう。

## 丹生の水銀と伊勢白粉(おしろい)

勢和丹生の丹砂(水銀鉱石)は古代から知られ、顔料や防腐剤、薬、金メッキの触媒として利用されていました。中世以来、中万の新興地であった射和では、水銀を加工して軽粉を造り、繁栄を極めました。さらに伊勢神宮の御師が土産として各地に配ったことで、伊勢白粉として全国に広まり、この地域に富と豪商の発展をもたらしました。伊勢白粉は昭和28年に製造を止め、丹生の水銀も昭和48年に採掘中止となり、その長い歴史に終止符を打ちました。

### ◆紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会◆

紀伊半島交流会議は「吉野・熊野の霊場と参詣道」の世界遺産登録を見据えて、平成16年に結成。その中で伊勢街道分科会は、伊勢街道を軸としたネットワークの構築を目的として、街道沿いの歴史や文化にふれ、人々との交流を深めようと、ウォーキングイベントやフォーラムの開催、マップの作成などの活動を行っています。平成19年からは風景街道「伊勢街道」連絡協議会において中心的な役割を担い、地域の団体や企業、行政と共に古道の復興や道標の再建など、街道の歴史的資産の保全活動を進めています。

代表 裏宗久

事務局：奈良県宇陀市大宇陀上新1925 TEL・FAX 0745-83-3151

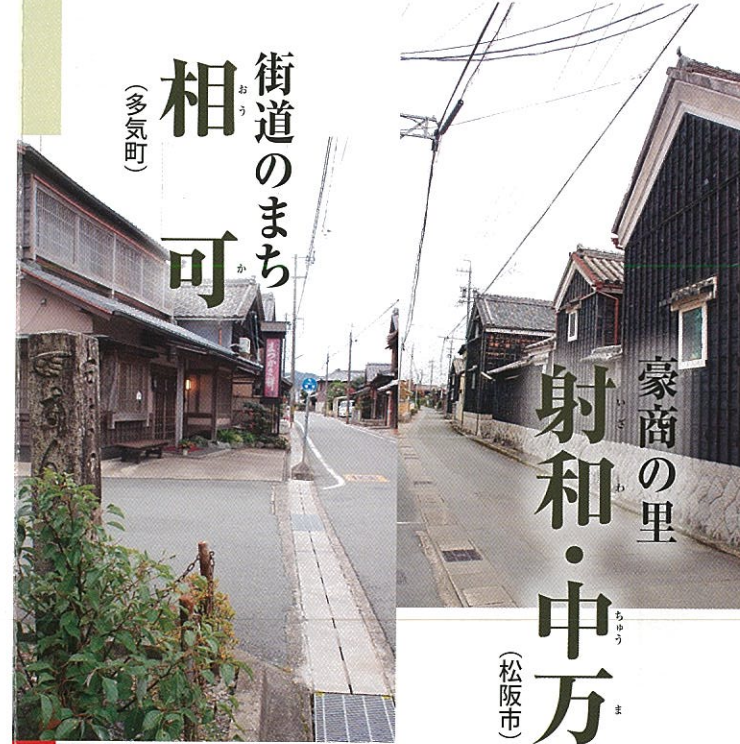
- 伊勢街道：四日市市日永で東海道と分岐し、伊勢湾岸を津、六軒、松阪、齋宮を経て伊勢に向かう道。
- 熊野街道：玉城町田丸を起点に、女鬼峠、紀勢路を経て国道42号とつかず離れず南に向かう。

※熊野道：松阪から国道42号に沿って射和、相可を経て栃原で熊野街道に合する脇道。



## 伊勢本街道 寄り道マップ

街道のまち  
相可  
(多気町)



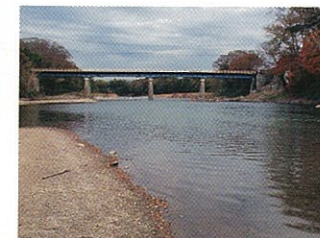
豪商の里  
射和・中万  
(松阪市)

### 両郡橋今昔

古来より榎田川の往来は渡し舟や簡単な橋を利用していました。明治22年に本格的な木造の橋が完成し、飯野郡(当時)と多気郡を結ぶことから



(初代の両郡橋：鹿東文庫提供)



両郡橋と名づけられました。明治41年にはレンガ造の橋脚を持つ木鉄混製の二代目となり、現在の三代目は国道(現・県道160号)の開通に伴って、旧橋より100メートル下流に昭和32年に架けられました。

### ◆紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会◆

この資料は公益信託「大成建設・歴史環境基金」から助成を受けて制作しました。

## 街道のまち 相可と豪商の里 射和・中万

江戸時代の相可は、大和と伊勢を結ぶ「伊勢本街道」と、熊野街道に抜ける熊野道が出合う宿場として賑わいました。ふたつの道が交わる「札の辻」には、「相鹿七つ井戸三乃井」があり、かつてはここで旅人や馬が喉の渇きを潤しました。今もその周辺には、街道名物の餅や鮎の甘露煮を売る店があり、往時の面影を偲ぶことができます。

櫛田川にかかる両郡橋を渡ると、松阪商人発祥地の射和・中万地区に入ります。室町時代には櫛田川上流の丹生で産出される水銀で財を蓄えた人々は、江戸時代にいち早く江戸へ進出して、呉服や味噌、醤油などを商ったり両替商を営んで、江戸屈指の豪商に数えられました。宝暦13年の『新撰道中細見記』には、相可の部で「町の左は大川有川向を射和と云也 よき家居多し 江戸の竹川・富山が本家此所にあり(後略)」と、射和の一見を勧めています。



### ⑦伊馥寺と延命寺

両寺とも高い石垣を築き、表面を櫛田川岸にあけている。伊馥寺の手前には船着場跡へ下る道がある。



### ⑧竹川家(射和文庫)

幕末から明治初頭にかけて、経世家竹川竹斎が人材育成のため、私費をつぎ込んで文献を集めて開設した図書館。



### ⑨国分家

「大國屋」の屋号を持ち、江戸時代「亀甲大」印の醤油が非常に評判となった。「K&K」印のブランドは明治41年に商標登録。



### ⑥棕の大木

根元には賽の神の祠や燈籠が建ち、西行法師の「疲れぬる我を友呼ぶ千鳥の瀬 越えてあふかに旅寝こそすれ」の歌碑がある。

※ --- は伊勢本街道  
— はモデルコース



0 100 200 300 400 500m



### ⑩富山家

かつて江戸で呉服商「大黒屋」を営む。家の玄関は東端の小路に入った中程にあり、川と道を等しく意識した建て方になっている。



### ⑤札の辻

伊勢本街道と熊野道の交差点で文久3年の道標が建つ。右の道標は「みなどや」角から移設したもの。街道の南側は、江戸時代の豪商、大和屋の屋敷跡で、近年まで町役場が置かれていた。



### ④レンガ造橋脚

二代目両郡橋のもので、川の中程にも残骸が残る。入口の左は「みなどや」で、右には江戸後期の本草学者、西村廣休遺愛の多羅葉がある。



### ⑪竹口家

「ちくま味噌」などの製品で知られる豪商の邸宅。屋敷門などに当時の姿をとどめている。



### ③銚ヶ瀬への下り口

倭姫命の伝承地で、古い熊野道は射和から渡し舟や簡単な橋でここへ渡った。下り口に百日咳に靈験のある「おんばさん」がある。



### ②鹿水亭

もとは「車屋」の屋号を持つ旅籠で、近年まで旅館「鹿水亭」を営んでいた。西隣は「越後屋」が取り壊され、変則の広い三叉路になっている。



### ①相鹿上神社

天兒屋命(アメノコヤネノミコ)、大鹿首(オウカノオビ)の祖も祀る。明治41年の合祀により伊勢本街道沿いから遷座。

